ようこそ校長室へ！

Ｎｏ．58
令和６年３月15日
発行 ： 貝 塚 敦

に にこにこ笑顔で　い いつもみんなで　つ 紡ぎ繋げる心で　に 日本一をめざすのだ

４月の「再集合」を誓う今年度の「最終号」

＜令和５年度修了式　校長講話＞

本日、令和５年度の最終登校日、後期終業日を迎えました。

後期の最後であり一年間の終了日ですが、「終」と書く終業式あるいは終了式ではなく、正式には、「修」と書く修了式です。つまり、１年の締めくくりの日である今日は、皆さんが、それぞれの学年で学ぶべきことをすべて学び終えて、次の学年に進むことができますよ、という日でもあります。

あらためて、１年間よく頑張りました、そして進級本当におめでとう。

同じように、３月５日の卒業式で、３年生 207 名もこの学び舎から立派に巣立っていっきましたが、卒業式前の２月２８日には、３年生は、同窓会入会式という、これまでこの新津第二中学校を卒業した 11,816 人の先輩方の仲間入りをする会に臨みました。

皆さんも、１年後、２年後、新津第二中学校を卒業して同窓生の一員となるわけですが、自分が知らない人でも年齢が離れていても、自分と同じ学校の出身者にはとても親近感がわきますし、有名人や様々な分野で大活躍をしている人が新津第二中学校の卒業生だとわかると、個人的にとても嬉しく誇らしく感じるものです。

私も個人的に、昨年とても嬉しいことがありました。ＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）が、新しい日本人の宇宙飛行士候補を２名発表しましたが、そのうちの一人である諏訪理（まこと）さんという方が、自分の出身高校の後輩であると、マスコミの報道やＳＮＳ等を通じて知りました。

宇宙飛行士の選抜試験は、国内で最も難関だと言われています。今回も 4000 人以上の応募者の中から、とても厳しい５段階の選考を経て二人だけが選ばれました。今後、この二人は、日本人で初めて月面に降り立つ可能性がある候補と言われています。

今から30年以上も前の1990年、日本人で初めて宇宙に行ったのは、ＴＢＳの記者だった秋山豊寛さんという方です。私は、この時のテレビ中継を今でも鮮明に覚えています。諏訪さんも、中学生の時に、この時のテレビ中継を観て宇宙飛行士にあこがれたといいます。一度不合格になった宇宙飛行士への夢をずっとあきらめずに再度挑戦し、史上最年長の合格を果たしたのです。同じ同窓生ということだけで、私にとっても我がことのように嬉しいニュースでした。

さて、私は、卒業式での３年生への贈る言葉の中で、次のような話をしましたよね。

「決して、有名人になることや社会的地位や栄誉や富を手にすることが幸せではありません。誰とも比べることのできない、あなただけの幸せや生きがいをつかんでください。たとえ平凡な生き方と言われようと、家族を愛し、隣人を愛し、地域に貢献し、だれにも迷惑をかけずに、黙々と社会を支えながら生きることこそがすばらしい生き方だと考えます。周囲から、愛され・励まされ・応援されるような人間をめざしてください。」と。

宇宙飛行士になりたい、サッカー選手になりたい、オリンピックに出場したい、芸能人になりたい、お金持ちになりたい・・・・。

とてもすばらしい夢だと思います。そういう夢を本気になって実現しようと頑張る仲間を応援することもまた夢の一つです。そして、私が卒業式で話したような生き方もまた、立派な夢だと思うのです。「夢」＝「目標」、「夢」＝「幸せ」だと置き換えてみてください。皆さんには、自分なりの「夢」実現に向けた歩みを、来年度もしっかりお願いしたいものと強く願います。

今回が、今年度皆さんにお話しする最後の機会となりました。いわば、校長講話「最終号」です。

そして４月５日は、新しい仲間の新入生を迎え、そして１年進級した新クラスで「再集合」です。

新たなすばらしいスタートをきれる令和６年度を、心待ちにしています。